

令和元年度国土交通省大臣官房官庁営繕部
コンプライアンス・アドバイザー委員会委員名簿

委員長	深尾 精一	首都大学東京名誉教授
委員長代理	大橋 弘	東京大学大学院経済学研究科教授
委員	岩島 秀樹	弁護士（大地法律事務所）
委員	丹羽 秀夫	公認会計士・税理士
委員	野城 智也	東京大学生産技術研究所教授

※委員は50音順

令和元年度第1回国土交通省大臣官房官庁営繕部 コンプライアンス・アドバイザー委員会 議事概要

開催日 令和元年7月31日(水)
場所 中央合同庁舎第2号館 官庁営繕部会議室
出席委員 深尾委員長、岩島委員、丹羽委員、野城委員

議題 平成30年度国土交通省大臣官房官庁営繕部コンプライアンス報告書について

委員からの意見

- ・ 公共建築分野における支援は非常に重要である。官庁営繕部は全国の発注組織の手本となるところなので、それ念頭に置いて色々な取組をすべきである。
- ・ 職員が研修講師となって地方公共団体等の公共建築分野の関係者に説明することや、公共建築相談窓口として様々な対応をすることは、職員自身の学び直しになり、レベルアップにもつながることから、今後も取組を継続すべきである。
- ・ 組織として仕事が減るとモラルが低下しがちである。昔に比べれば営繕工事で新築がかなり減っているようなので、それが職員の意欲低下につながることはないよう、官庁営繕のミッションを見直すなどして業務の幅を広げ、職員の意欲向上を図った方がいいのではないか。
- ・ コンプライアンスに関する様々な事例をビデオで視聴することは、規則類を読むより効果が高いと思われるので、判断に迷うようなヒヤリ・ハット事例をたくさん入れるなど充実させた方がよい。
- ・ 発注者綱紀保持マニュアルやセルフスタディ・チェックシートについては、その活用を職員に周知するだけでなく、職員が実際に活用したかどうかを確認・検証してはどうか。
- ・ コンプライアンス報告書の内容については特に異論はない。